令和５年度復職支援研修

延岡地区トライアル研修実施報告

研修　令和５年 ８月 23 日（水）～８月 25 日（金）

令和５年度復職支援研修　延岡地区別復職支援研修実施報告

1. 目　　的　　未就業看護職に対し、最近における看護知識・技術を修得させ再就職を促すとともに就業の継続支援を目的とする

2. 開催期間　　延岡地区　令和５年８月 23 日（水）～8 月 25 日（金）10：00～15：00

3. 開催場所　　延岡地区　延岡市医師会病院（〒882-0856　宮崎県延岡市出北 6-1621）

4. 受講資格　　未就業の保健師・助産師・看護師・准看護師で、再就業に意欲的な方

5. 主　　催　　宮崎県、公益社団法人宮崎県看護協会

6. 協　　力　　延岡市　公共職業安定所　延岡市医師会

7. プログラム

集合研修	午前	午後
8/23 １日目	９：30～9：45　受付 **開講挨拶** **オリエンテーション** **復職支援講座・交流会** （10：00～12：00） 受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める。 講師　宮崎県ナースセンター キャリアコンサルタント荒川貴代美	**感染管理（13：00～15：00）** 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。感染予防の基本的技術を習得する。 講師　宮崎県立延岡病院 感染管理認定看護師　山口　順一氏 就業相談実施（希望者のみ） ナースセンター職員
8/24 ２日目	**訪問看護ステーションの概要** **（10：00～11：00）** 訪問看護の役割ややりがいを知る。 講師　訪問看護ステーション ひとしずく 代表取締役　長友亜紀子氏 **実習についてのオリエンテーション** （11：10～12：00） 延岡市医師会病院 副総看護師長　鴨田充世氏	**フィジカルアセスメント** **（13：00～15：00）** 患者の状態から緊急性の有無を明確に判断・把握する。 講師　宮崎県立延岡病院 集中ケア認定看護師　中矢　裕子氏 就業相談実施（希望者のみ） ナースセンター職員
8/25 ３日目	**病院実習（9：00～12：30）** 延岡市医師会病院にて 実習支援看護師とともに病院での看護ケアを体験する。感染管理対策、医療安全管理を学ぶ。 実習支援担当：牧野清明氏　岩切史弥氏 （実習内容） 看護記録（電子カルテの使用） 状態観察（バイタルサイン測定） 採血技術/経管栄養/血糖測定 移乗動作/吸引	**研修の振り返り（12：30～13：00）** **関係機関が集合！人材確保に関する協議** **（14：00～15：00）**

8. 結　　果

1）参加者数　8名

【受講者の状況】

資格：助産師・看護師1名　看護師4名　准看護師3名

就業状況：就業中　2名、未就業6名

年齢分布（単位：人）n=8

20歳代	1
30歳代	2
40歳代	4
50歳代	1
60歳以上	0
平均年齢	42.1歳

経験年数（単位：人）n=8

1年未満	1
1年～4年	1
5年～9年	1
10年～19年	3
20年以上	2
平均経験年数	12.8年
最大値	30年
最小値	0.8年

ブランク年数（単位：人）n=6

1年未満	3
1年～4年	0
5年～9年	1
10年～19年	2
20年以上	0
平均ブランク年数	4.7年
最大値	11年
最小値	0.1年

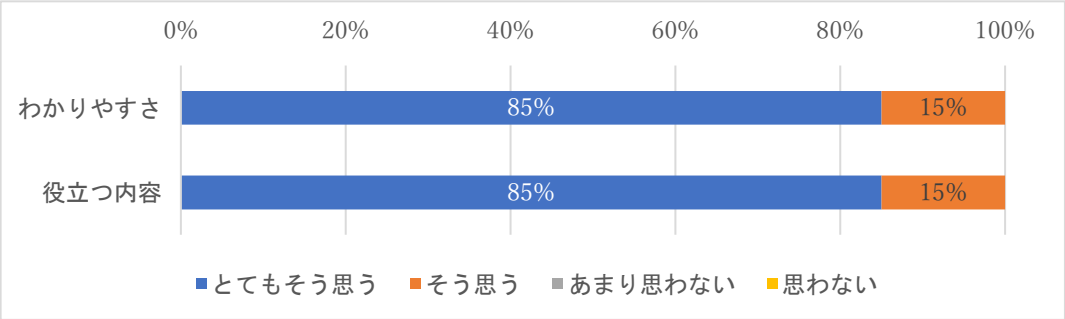
2）研修アンケート結果

（1）回収数7（回収率100%）

（2）講義について

各講義について「わかりやすさ」と「役立つ内容であったか」について4段階評価を行った。

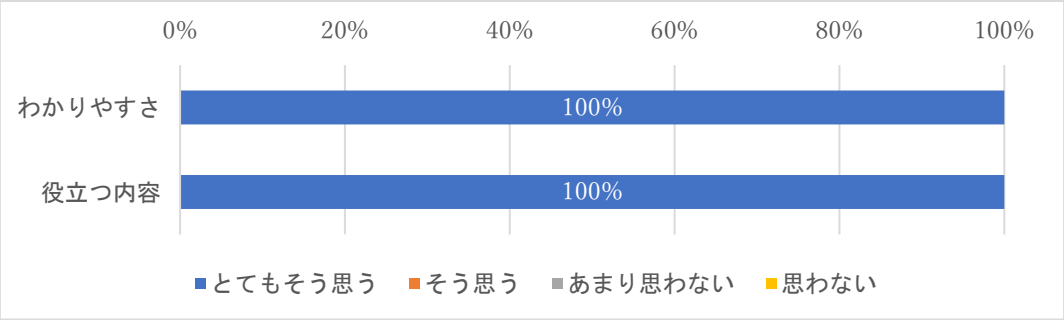
講義1　復職支援講座



（わかったこと自由記載）

- 面接や履歴書の書き方のアドバイスをしてくれることを知ってよかった。
- 悩みについても相談できることを知れてよかった。
- 経験者でも指導体制があるのか病院側に質問することも大事だと思った。
- 履歴書や面接時に注意しなければならないことが良くわかった。
- 復職するときのステップ、自分との向き合い方、どんな看護を目指したいのかを考えることができた。
- 再就職する上でブランクも長くとても不安いっぱいの中、この機会を得ることができた。お話の全てが私の心に響いて改めて看護職という仕事の大切さを思った。少しでも役に立ちたいと思った。
- 就職活動をするにあたってもっと自分自身を知ることの大切さがわかった。さらにナースセンターでは復職支援だけでなく看護の普及啓発、職場環境の支援なども行われていることを知ることができた。

講義２　感染管理



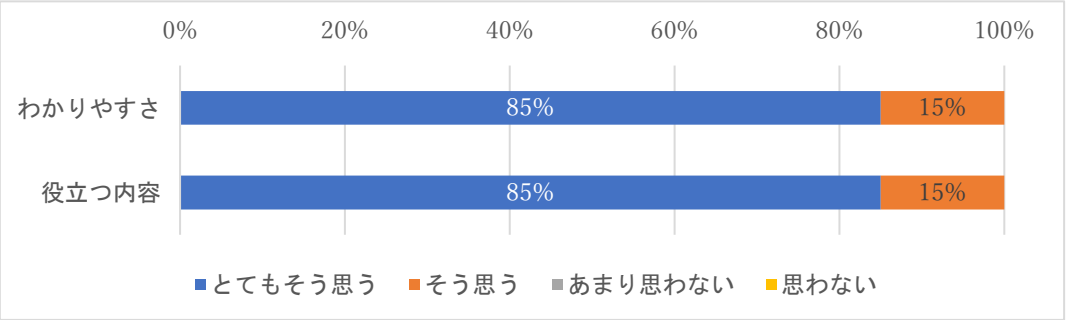
（わかったこと自由記載）

- 手指衛生の「5 つのタイミング」を学んだ。スライドや動画がわかりやすかった。
- 手洗い、手指消毒の使い分け、手指衛生のタイミングがどこなのかを考え、意識づけしていくことで感染が広がらないのではないかと考えた。
- 手指衛生や PPE 着脱の手順などわかりやすくなぜ必要なのかもよくわかった。
- アルコール消毒と石鹸手洗いに効果の違いがあることを知った。スタッフの意識の違いによって感染予防に大きな差が出る。感染経路別予防策の大切さを知った。
- 感染予防で最も大切なことは手指衛生であり、効果的な対策だということ。手指衛生のタイミングや PPE 着脱の手順など実際にやってみることができ、何に気をつければよいのかを知ることができた。

１日目の感想

- いろんな方と情報交換ができてよかった。
- 感染対策でガウンやエプロンの着脱を学べてよかった。
- 実際に手袋・ガウンを使ってみて清潔・不潔の区別を自分で判断し患者様に菌・ウイルスが移らないためにも標準予防策の大切さを改めて学ぶことができた。N95 の使用直前ごとのユーザーシールチェックが必要だということを思い出した。すごく勉強になり楽しく講義を受けることができた。
- 久しぶりに学びができた。少し勇気をもらえた。
- 来る前は不安でしたが、参加者の方と情報交換もできて参加してよかった。
- 復職するまで時間はかかると思うが、まず自分の経験が少ないことを自覚して前向きにどんな看護を目指すのかを考えることができました。
- 復職に不安を抱えておられる方々と共に参加できて、少しほっとしている。少しずつコミュニケーションが取れて共に一歩でも前に進むことができたらと思います。ブランクも長く、再就職について少しでも今の知識を再確認させていただく事ができることに感謝している。今後の仕事に役立つと内容だった。
- 研修の参加にしても、復職に対しても不安や緊張が大きかったのですが、参加者と交流することにより、皆さんと同じような不安を抱えていることがわかり少し気持ちが楽になった。

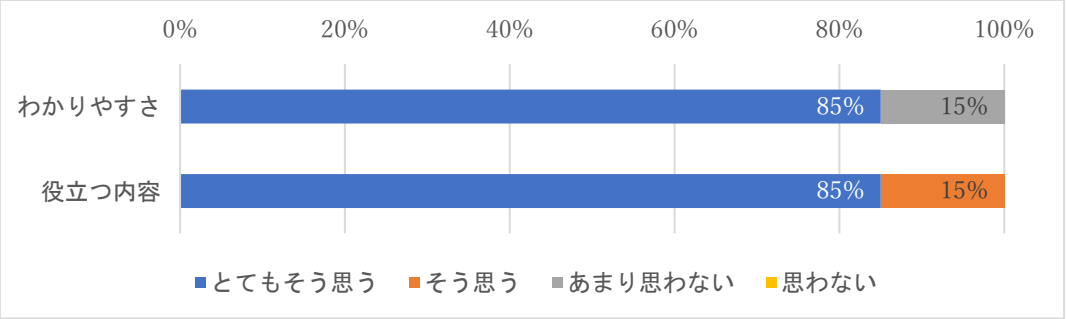
講義３　訪問看護ステーションの概要



（わかったこと自由記載）

- 利用者さんとの信頼関係が素晴らしいと思った。訪問看護の知らない部分がわかった。
- すごくやりがいのある仕事だと感じた。看護技術、コミュニケーション能力を求められる仕事なのかなと思った。
- 訪問看護ステーションがあるのは知っていたが実際にどんなケアをしているのか全く知らなかった。事例を挙げて説明してもらい医療的なケアだけでなく心のケアやつながり、家族のケアなどがあることがわかった。
- 在宅ケアの必要性や重要性がわかった。
- 在宅ならではの良さがすごく伝わりました。事例を聞いて実際の訪問看護の仕事内容や利用者、チームとの信頼関係のつながりがすごく魅力的だった、人材確保が必要なことも分かった。
- 利用者との関係がとても大切だということがわかった。
- 時間内のだけの看護と思っていたが、利用者中心のケアを大切にしている。これからもっと大事になるケアだと感じた。大きなことを一度にしようとせず、小さことを大切に継続していくことの大切さ。愛情たっぷりでたくさん気づかされることがありました。在宅では、信頼関係や家族の存在が病気に打ち勝てることがわかった。

講義４「フィジカルアセスメント」



（わかったこと自由記載）

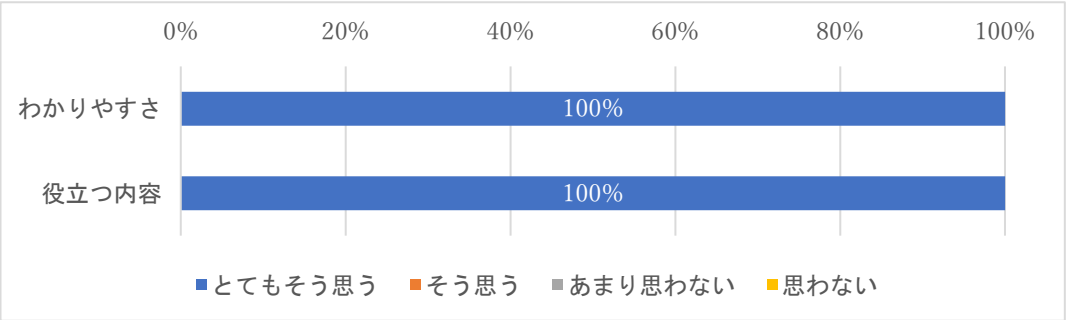
- 患者さんの状態から緊急性の判断する知識が必要だと分かった。
- 看護の基礎をしっかり学べてよかった。実際の呼吸音や呼吸状態を見ることができてわかりやすかった。
- 今までバイタルチェックをする際に、数値だけを見ていたような気がする。今日の講義で血圧や呼吸、脈拍などの変化を全体的に見ていくことの重要性がわかった。「何か変」という感覚を大事にするということを心に留めておきたい。
- 学ぶことが多すぎて頭がいっぱい、いっぱいですがフィジカルアセスメントの大切さがわかった。
- 患者の状態の緊急性を判断する中で ABCDE アプローチについて学びたいと思った。家で復習したいと思った。観察項目を見て考え、判断できるようになりたい。

・　バイタルサインが以上の早期発見につながることを改めて感じた。呼吸までしっかりと観察したい。日常の患者の様子をしっかりと把握必要があり、学んだ知識を活かしたい。

２日目の感想

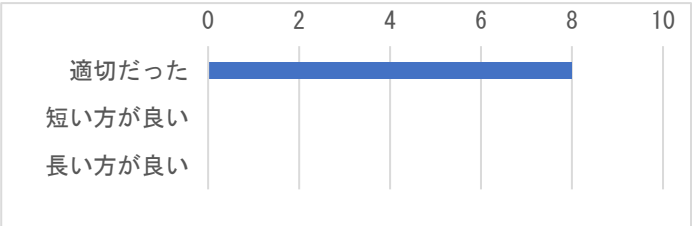
・　訪問看護の話が聞けて良かった。フィジカルアセスメントでは難しいことが多くてついて行くのに精いっぱいだった。これから復職するためには良い勉強になった。
・　看護師は患者さんの命と密に関わっているなと改めて実感した。充実した講義を聞けてとてもよかった。復職について緊張感が増した。
・　午前中の訪問看護ステーションの事例の方が訪問看護で変化していくことに感動した。
・　フィジカルアセスメントという言葉も普段あまり使わない生活をしていたのでとても勉強になりました。
・　訪問看護に対しての考え方が変わり、とても重要なことだと思った。
・　フィジカルアセスメントを深く学ぶことができた。訪問看護では、利用者の方と近づきすぎない距離感が必要だと言われた。とても大事なことだと思った。今日も楽しい研修を受けることができた。
・　訪問看護について学生時代学ぶことがなかったのでとても興味深かった。利用者が訪問看護を卒業する（訪問を終了すること）ことを考えて対応していることを知ることができた。
・　フィジカルアセスメントではこれから再スタートするにあたってとても勉強になった。

実習について

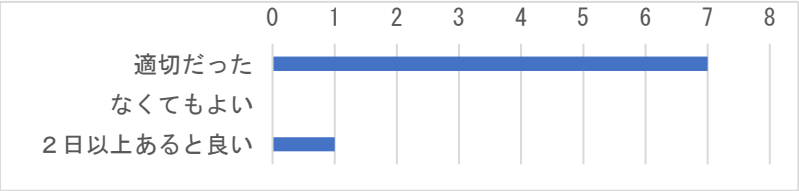


・　実施研修をすることで昔を思い出し、最近の医療について触れることができわかったことがたくさんあった。
・　自分が不安だと思っていたことが学べてよかった。
・　医療の現場を知ることができた。電子カルテ、患者のケアも見ることができて勉強になった。
・　病棟の雰囲気が良かった。事故のないようにダブルチェックやワークシートを使い家族との連絡する工夫をしていた。
・　電子カルテが導入されたことで看護師の負担が減っていた。胃ろうからの栄養補給や採血、インスリン注射など進歩していた。
・　電子カルテの使い方、経管栄養や採血、血糖値測定方法を学んだ。

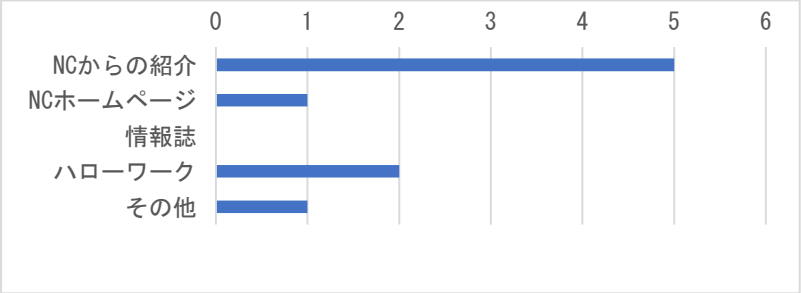
開催期間（３日間）について



病院実習について



研修の情報収集について（複数回答）



研修の希望

- 今回の研修内容で十分だと思った。実習は半日でも十分だと思った。
- 実習があると安心できる。
- 採血（２）
- 点滴（３）
- 導尿
- 電子カルテ
- 急変時の対応

３日目の感想

- 不安や心配しかない自分にとって、病院で実施研修をしてくださり感謝の気持ちしかない。
- 病院実習が 2 日以上あると良いと思った。意欲につながる。丁寧に指導してくださってありがたかった。
- とても緊張したがいろんな経験ができてよかった。
- 半日の時間でも内容の濃い看護場面を見せてもらった。忘れていたことを思い出すことができた。
- 実習で血糖測定や採血等の実践ができてとてもよかった。改めて自分の実力を再認識して自信にもつながった。パソコンが苦手なので電子カルテに触れてみたかった。
- 学生以来の実習で緊張した。病棟の現場を体験でき良かった。復職に向けて少し前に進めたのではないかと思った。
- とても充実した 3 日間だった。前に進めた気がする。

７．まとめ

2019 年度に日本看護協会事業である「地域に必要な看護職確保推進事業」に取組みを行い、その後も地区別復職研修として実施し今年で 5 年目となった。延岡地区では、延岡市・延岡市医師会・延岡市医師会病院・ハローワーク延岡と協力し継続した事業となっている。今年度は、延岡市医師会病院での実習を加え 3 日間とした。ここ 3 年コロナ禍で実習が行えないこともあり、タイムリーな復職支援を行うため 3 日目に病院実習を組み込むことで受講者のモチベーションを支援することとした。

研修の広報は、夕刊デイリー、看護協会ホームページ、宮日新聞情報誌「きゅんと」への掲載を行なった。また、ハローワーク延岡、看護のシゴト出前就業相談、ナースセンター求職者への案内など

を行い、受講者は 8 人となった。

今年度の研修は、復職支援講座、感染管理、訪問看護、フィジカルアセスメント、実習のプログラムで実施した。それぞれの講義についてはアンケートの結果から満足度が高かった。また、研修期間と実習に関するアンケートでは、3 日間の研修で実習を含むことは概ね適切という反応であった。

3 日間を終え、受講者と延岡市医師会病院の看護管理者と病院実習の担当者、延岡市医師会事務局長が参加し振り返りを行った。そこで、実習を担当した看護師から、看護師の仕事について「一人じゃなくてチームで動く」という言葉は、これから復職を考える受講者にとって安心につながっていた。また、研修に参加することに対して「復職に向けて一歩前進している」という言葉は復職への励みにもなっていた。

この研修の参加者は 10 人前後で推移し、参加者の 6 割が就業に至っている。この取り組みは潜在看護師を掘り起こし、地域の看護職確保につながっていると評価している。引き続き、関係機関と連携しながら潜在看護師が安心して復帰できるような場を提供し就業につなげていきたい。

【研修風景】

●感染管理

県立延岡病院
感染管理認定看護師　山口順一氏

●訪問看護の概要

訪問看護ステーションひとしずく
所長　長友亜紀子氏

●実習オリエンテーション

延岡市医師会病院
副総看護師長　鴨田充世氏

●フィジカルアセスメント

県立延岡病院
集中ケア認定看護師　中矢裕子氏

●実習

●振り返り